

大工職人が建てる家

・施工例紹介集・



会社概要



- 社名 有限会社ナカムラ
- 本社 富山県富山市婦中町中名1293
TEL.076-466-3752
FAX.076-466-3769
- 工場 富山県富山市婦中町道場531-5
工場2棟
- 代表者 代表取締役社長 中村 満
- 創業 昭和25年
平成3年10月法人設立
- 資本金 500万円
- 社員数 14名
(1級建築士2名・2級建築士4名・
大工職人9名)
- 主要設備 設備工場2棟・製材機1基・
プレカットマシン1基
- 事業内容 寺院・注文住宅(木造)・
店舗・倉庫・車庫の設計・施工・
リフォーム
- ホームページ <http://www.ie-nakamura.jp/>



事務所外観



自社プレカット工場



多目的ホール



力強い木組みが支える落ち着いた和風の佇まいに こだわりの土間たたきがよく似合う

使用する素材や仕上げ
建具のデザインにも
要望が反映された

ご夫婦のみで住む平屋建てですが、どっしりと大きく、2階建てのようにも見えます。その理由は、屋根の棟上に光や風を取り込むために作られた小さな屋根「腰屋根」の存在、そして、軒の出が大きいことにあるだろう。南の軒下には、風情あふれる濡れ縁があり、足元はかつての家屋で見られた土間たたきになっている。たたきとは、土に石灰やにがりを混ぜて練り、石のように硬くなるまで叩き固めたもの。大変手間がかかるが、その仕上がりは、日邸の佇まいととても合っている。そんなたたきをはじめ、床材、建具まで、いずれも基本としたのは、ご主人のイメージだ。「希望を最大限に取り入れてもらえました」と、満足げな様子からは、

「有」ナカムラとの打ち合わせが、綿密に行われたことが容易に想像できる。内部はLDKを中心に、各所を下がり壁などで分けながらも、建具で仕切っていない部分も多い。リビングやダイニングの上は吹き抜けにもなっている。特に開放的だ。同社が手がけるのは、伝統的な木造軸組工法による家で、吹き抜けにはその木組みが見えるようになっていく。耐久性が必要な柱や土台には、ヒノキを使用していて、構造材は自社製材されたもの。一本一本、木によって異なる特性を見極め、その個性に合った材料に加工して、地域に根付いてきた職人の技による手刻みも併用。吟味した素材、高い技術を用いながらも、極力無駄を省いてコストにも反映させてもいる。大きな植栽は業者に頼んだが、日さんは休日を利用して庭づくりに励む。家も庭も、大切に育まれていくことだろう。

家族のお気に入り

車庫と家の軒が重なっているため、雨が降っていても外出時に濡れずに済む。全体に軒の出が大きく、少しぐらいの雨なら外作業もできる。

全体に風が抜けて気持ちいい。仕切りがあまりなく、吹き抜けもある広い空間だが、夏でもエアコンのドライ運転だけで十分だった。

格子戸やスギの板戸、襖など、建具もイメージに合わせて一つひとつ作ってもらえ、思うような仕上がりになった。

サンルームはよく風が通り、暖かくもあるので、洗濯物がよく乾く。物干し場ではあるが、居心地もいい。



1.濡れ縁の下は、素朴で味わいがある土間たたき。通常はコンクリートで済ませる所にも、ご主人の要望がきちんと生かされた。



2.リビングの大開口から眺める庭は、格別だ。軒がかなり大きく出ているので、多少の雨でも窓は開けておける。

3.家と同様に日本瓦葺で、立派な木組みを表にした車庫兼アプローチ。アプローチはスロープになっていて、歩きやすい。

施工会社を決めた理由

実家のある富山に転動になったのを機に、家を建てることにしました。信頼できる会社をと、紹介してもらったのが「有」ナカムラです。誠実で丁寧で、お互いにいいものをつくりたいという目標があったので、打ち合わせには時間もかかりましたが、苦にはならなかったですね。大工さんも丁寧で、仕上がりに満足しています。

富山市・H邸

木造軸組工法

家族構成：ご主人+奥様

延床面積：約43.8坪

New-building
example Report

2009

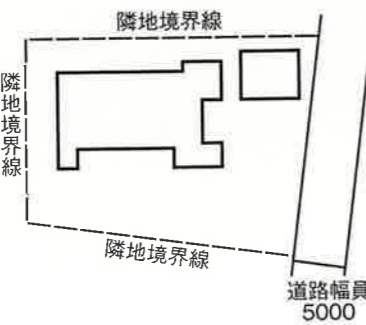
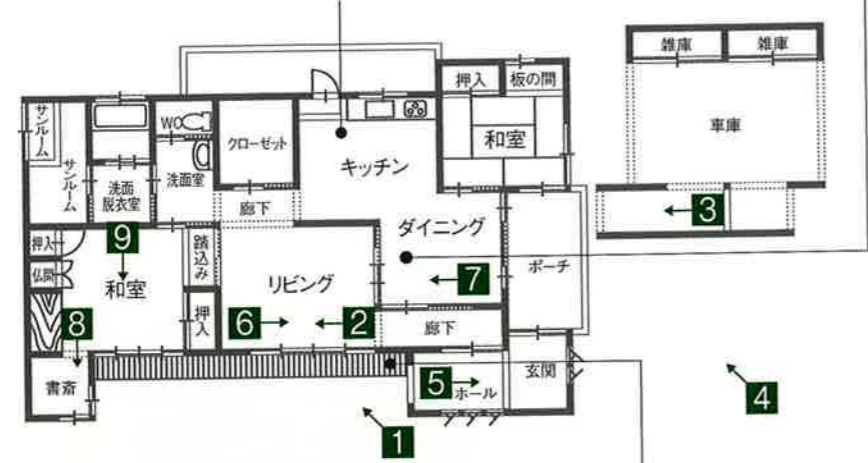
建物データ

【土地面積】	495.87㎡ (約150坪)
【施工面積】	180.12㎡ (約54.5坪)
【延床面積】	1階 144.59㎡ (約43.8坪) 合計 144.59㎡ (約43.8坪)
【用途地域】	第一種低層住居地域
【建ぺい率】	50% 【容積率】 80%
【建物構造】	木造平屋建
【仕上げ部材】	外部仕上げ 基礎/鉄筋コンクリートベタ基礎 屋根/日本瓦 外壁/下見板張り 京外壁一部サイディング 内部仕上げ 玄関 床/御影石一部三和土(た たき)仕上げ 壁/珪藻土 天井/ヒノキ羽目板貼 LDK 床/ムク床板 壁/珪藻土 天井/ヒノキ羽目板貼 和室 床/畳 壁/ジュラク壁 天井/年輪天井
【設備機器】	キッチン/TOSTEM 洗面化粧台/TOSTEM システムバス/TOSTEM 便器/INAX
【工事内訳】	仮設工事/基礎工事/木工事/鉄骨工事/内 装工事/屋根工事/板金工事/外壁工事/左 官工事/タイル工事/ガラスサッシ工事/防 水工事/内部塗装工事/外部建具工事/内部 建具工事/設備工事/給排水設備工事/雑工 事/運搬費
【別途工事・設備】	内訳/造園工事、外構工事

家づくりのスケジュール	
情報収集開始	2007年ごろ
具体的行動	2007年ごろ
依頼先の決定	2008年2月ごろ
工事契約日	2008年11月1日
設計期間(基本・実施)	約3週間
工事着工日	2008年11月10日
上棟式	2008年12月13日
竣工	2009年3月20日

設計ポイント3

キッチンは奥様の要望で、窓が取れる壁向きにしたが、収納を兼ねた作業カウンターをダイニング向きに造作。ちょっとした食事もとれるようにし、対面キッチンの利点も残した。



設計ポイント2

ダイニングは引き戸によって、リビングと別空間にすることができる。本棚やパソコンもある多目的なダイニングは、仕切ること、読書や作業に集中しやすい空間になるのだ。

設計ポイント1

濡れ線や土間の幅、高さなどを工夫し、リビングの床に座った状態でも、縁側ごしに、美しく仕上げられた土間たたきが見られるようにプランされた。軒の垂木もよく見える。



4.棟上の隠屋根が、いいアクセントになっている。西日が当たる面には、将来のメンテナンスを考え、サイディングを使用。

ナカムラの歴史

これまでの歩み



昭和45年、婦中町で1軒の住宅を手がけることになったのを機に、作業所を同町に建設。当初はまだ農業も続けていきましたが、仕事は少しずつ増えていきました。営業スタッフはいませんから、近所やお客様からの紹介が中心。とてもありがたい気持ちでした。

初代・正由は戦前、八尾町の宮大工・邑田軍治さんのもとに弟子入りし、大工としての腕を磨きました。
昭和25年、八尾町青根において独立するも、まだ当時は、住宅ローン制度などありません。家は資金がでけると少しずつ建て、親子3代かけてようやく仕上げるといふ時代。大工の仕事は決して多くなく、建設会社から請け負った橋架けの仕事や農業も行っていました。
昭和34年頃になると、木を切り出す仕事などに就いていた2代目・潔が入社。初代も含めた職人達の技を見て覚え、作業の合間の休憩中もノミやカンナ研ぎを欠かさないなど、努力を続けました。代替わりの際には、社名を「中村建築工業」としました。

これまでも、お客様に喜んでほしいという思いひとつで、一生懸命、真面目に家づくりに取り組んできました。同じお客様の家を2度建てたり、親子3代の家をすべて手がけたりと、お客様に育てていただいた会社とも言えると思います。

平成3年には法人化し、「有限会社ナカムラ」に。平成4年には、製材・加工のための自社工場も完成しました。八尾にいた頃は、切り出した木を刻む様子なども見ており、大変興味を持っていました。木の見極めにも問題はありませんでした。工場ができたことで、住宅メーカーのようにパターン化することなく、いろいろな材料が思うように作れ、すぐ挽いてすぐ使えるというメリットも生まれました。やがて、大学で建築を学び、設計事務所などで働いていた3代目・満が入社。営業・設計・積算・アフターフォローまで、幅広く受け持つようになりました。



7.仕切ることのできるダイニング。柱や梁には柿渋が塗られ、壁には珪藻土を使うなど、健康的な素材が選ばれている。



9.床の間を低くしたせいか、空間全体がすっきりと見える。温かみのある上品な色が選ばれた塗り壁には、ワラが入っている。



6.床はアメリカンブラックチェリー、天井はヒノキ。床にはワックスではなく、天然の亜麻仁オイルが塗られている。



5.屋根の傾斜を生かした天井が、空間の面白みにもなっている。ホールにはガラスが入っていて、玄関からも縁側が見える。



8.和室に作られた書斎は、天井を下げ、落ちてくる空間に。角の両側が窓になっているので、日中は自然光だけで読書が可能。

New-building example Report
2009

心なごむ水の音、そよぐ風、眩しい緑
 家族のやさしい笑顔が自然に浮かんでくる家



富山市・T邸
 木造軸組工法
 家族構成：お祖母様+ご主人
 奥様+子供男1
 嫁+孫女1
 延床面積：約69.4坪



1. デッキへは、アプローチの格子戸から出ること可能。バーベキューのほか、月見なども楽しみたいとか。
2. 別世界への入り口のような、風情あふれるアプローチ。安らぎに満ちた空間は、ここからスタートする。
3. ブロックを施した壁や、吹き抜けの太い梁がアクセントになっている玄関ホール。玄関引き戸もオリジナルだ。

京都の路地を思わせる
 アプローチを
 歩くだけでも癒される

板塀に囲まれたアプローチの先には、縦格子から漏れる光が見え、足元に作られた水路からは水の流れる音が耳に心地いい。京都の路地を思わせる演出に、心がホッと和むのを感じる。アプローチ入り口には、今まで住んでいた家にあつた式台が待合のように据えられ、飛び石を渡って脇へそれると、つくばいや中庭

もある。このあたりの造りは、茶庭のよう。そして、ライトアップされる夜のアプローチもまた、風情たっぷりだ。

上から見ると、LDKなど生活の中枢部分はL字型にまとまっていて、和室だけは離れのように配置。独自の和の世界を作っているが、LDKとの間にあるデッキが橋渡しとなり、つながりも感じられる造りになっている。LDKで特別な存在感を漂わせているのが、奥様こだわりの赤いダイニングテーブルだ。中央に黒い格子がはめ込まれ、食

事のムードを高める小さな照明も取り付けられている。オーダー建具を手がけた建具店が、(有)ナカムラから提供された一枚板をもとに作ったもの。そのテーブルに座ると、建物と馴染むように造られた庭が見え、さらに心を緩めてくれる。T邸は、ご夫婦の想いや温かな人柄に惹かれて集まった、同社をはじめ、建具や造園のプロなどが一体となつてつくり上げた住まいなのだ。

